

Title	Christopher Brooke, From Alfred to Henry III., 871-1272., a history of England. Vol. II., general editors, Christopher Brooke, Denis M. Smith. Nelson, 1961
Sub Title	
Author	森岡, 敬一郎(Morioka, Keiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1962
Jtitle	史学 Vol.35, No.1 (1962. 6) ,p.155- 156
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19620600-0155">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19620600-0155</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

て、方法と態度、意識の上で多くの相違があるうとも、更に一段と高度の協力体制がこれを救う一つの途であるかも知れないのである。こう考えてくると、この度の日本思想史概説は、仮令編纂されたものにしても、独力によつて成し遂げられたものとしては、やはり、稀有のものといふことができよう。

終りに編集委員の方へ、ささやかな希望として、同種の講義の中から一つだけが選択される場合、もし不採用のものゝ中にも、部分的に他のものでは言及されていないような個所があつたときには、それを註の形式に於て採用して戴きたい。

また、今後の編集には周到な御計画が既におありとは思われるが、筆者としては、特に、講義年表にある史学史及び演習ノートの纏められたものを待望する。さらに、戦時中流行の国体論に対して、教授の独自の立場よりなる国体論の展開があれば、これにも接したき旨申添えて摺筆する。〔定価二〇〇〇円〕

(太田次男)

Christopher Brooke,

From Alfred to Henry III. 871—1272.

A History of England. Vol. II.

General Editors, Christopher Brooke,

Denis M. Smith.

Nelson, 1961

新しいイギリス史の大きな概説としては、第一に Oxford History of England, 14 Vols. を挙げるべきであろうし、特にアングロ・サクソン時代を取扱った Stenton 教授の巻は、極めて優れた作品であつて、新しいものを必要としないかに見えるが、何れも可成りの大冊で、初学の者の通読には必しも適してはいない。又 Oxford History of England が、少くも中世に関しては、既に大家の列に入る学者の労作であり、豊富な参考目録を備へ、可成り専門的であるとも言へよう。ここに紹介する Nelson 社出版のイギリス史は、比較的若い世代の学者の手になる全八巻のイギリス史の通史である。又、既刊の分について見れば、各冊手頃な頁数の内に、よくその対象とする時期の特色を捉へているものようである。

ここに取上げたのは、その内の第二巻であつて、Alfred 大

王から Henry III 時代までのイギリス史の諸分野にわたつて、僅か二五二頁の内に、巧みにその主たる傾向を捉へて描いている。勿論この僅かな分量の内に、区々の問題についての解説を求めることは無理であるが、時に我々初学の徒が、一事に拘泥して全体の流れを等閑に附し勝ちな時、改めて全体の動向を知るには極めて好適の書のように思われる。特に執筆者が前途を属目せられている若い世代の学者であることが興味を惹く。

例えば、第三卷の「The Later Middle Ages」は G. Holmes が、第四卷の「The Tudor Ages」は Lawrence Stone が、第五卷の「The Century of Revolution」は Christopher Hill が執筆している。第五卷「The Century of Revolution」の緒言に於つて、著者 Christopher Hill が自著の特徴を示すために、「History is not a narrative of events. The historian's difficult task is to explain what happened..... This book tries to penetrate below the familiar events to grasp "what happened" と言っているが、これは又、同時に本書の特色であるようにも思われる。

本来一般読者をも考慮して書かれたもの故、詳しい脚註もなく、又参考書目録も詳細とはいえないが、参考書目録は、よく精選されているように思われる。

Sayles の The Mediaeval Foundations of England

よりも、又 Pelican History of England よりも、分量も少く、又著述の方向も異つているので、やはり一つの新しい入門書として意味があるであろう。

ここに掲げた Brooke の書に限る限り、大勢を知り、又社会、経済、思想等の諸分野間の関聯などを大づかみに捉へるには良い書物であり、又随所に新らしい研究の成果が取入れられていることも便利である。

早く完結されることを待望してやまない。

(森岡敬一郎)

## 彙 報

### 第四七〇回三田史学会

昭和三十七年五月二十四日 於一〇九番教室

時代と個人 富田正文氏